

**製品名: IDH1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12353**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	46kDa

**抗原情報**

遺伝子名	IDH1
別名	IDH1; PICD; Isocitrate dehydrogenase [NADP] cytoplasmic; IDH; Cytosolic NADP-isocitrate dehydrogenase; IDP; NADP(+)-specific ICDH; Oxalosuccinate decarboxylase
遺伝子 ID	3417.0
SwissProt ID	O75874
免疫原	ヒト IDH1 の N 末端領域から得られた合成ペプチド。

**背景**

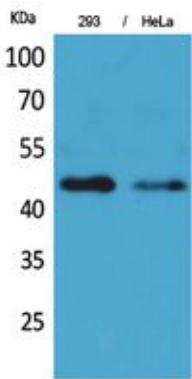
イソクエン酸脱水素酵素は、イソクエン酸から 2-オキソグルタル酸への酸化的脱炭酸反応を触媒する。これらの酵素は 2つの異なる

サブクラスに属し、1つは電子受容体として NAD(+) を利用し、もう1つは NADP(+) を利用する。5つのイソクエン酸脱水素酵素が報告されており、ミトコンドリアマトリックスに局在する NAD(+) 依存性イソクエン酸脱水素酵素が3つ、ミトコンドリアに局在し、もう1つは主に細胞質に局在する NADP(+) 依存性イソクエン酸脱水素酵素が2つある。各 NADP(+) 依存性アイソザイムはホモ二量体である。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞質およびペルオキシソームに存在する NADP(+) 依存性イソクエン酸脱水素酵素である。この遺伝子は、ペルオキシソーム標的シグナル配列 PTS-1 を含む。ペルオキシソーム内にこの酵素が存在することは、2,4-ジエノイル-CoA を NADPH に変換するなど、ペルオキシソーム内還元のための NADPH 再生における役割を示唆しています。触媒活性: イソクエン酸 + NADP(+) = 2-オキソグルタル酸 + CO(2) + NADPH。触媒活性: オキサロコハク酸 + NADP(+) = 2-オキソグルタル酸 + CO(2) + NADPH。補因子: サブユニットあたり1つのマグネシウムまたはマンガンイオンを結合します。疾患: IDH1 の欠陥は、多形性神経膠芽腫 (GBM) [MIM:137800] の原因です。家族性脳神経膠腫とも呼ばれます。神経膠腫は、グリア細胞に由来する中枢神経系の腫瘍であり、星状細胞腫、多形性神経膠芽腫、乏突起膠腫、および上衣腫から構成されます。、その他: Arg-132 に影響を及ぼす癌の変異は組織特異的であり、この残基が高悪性度神経膠腫の発生に特有の役割を果たしていることを示唆しています。、オンライン情報: イソクエン酸脱水素酵素のエントリ、類似性: イソクエン酸およびイソプロピルリンゴ酸脱水素酵素ファミリーに属します。、サブユニット: ホモ二量体、

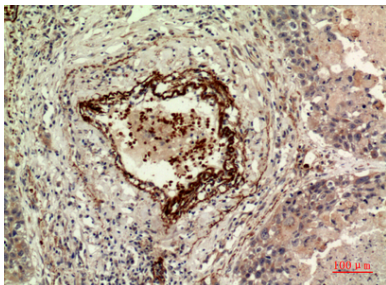
## 研究分野

クエン酸回路 (TCA 回路) ; グルタチオン代謝;

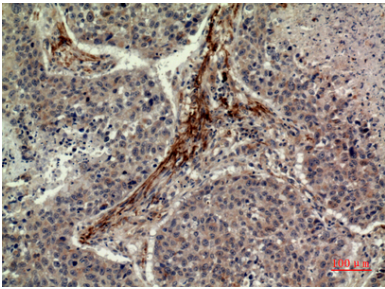
## 画像データ



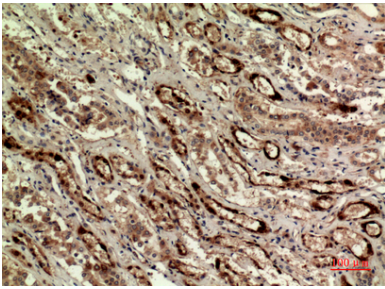
IDH1 ポリクローナル抗体を用いた 293HeLa 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



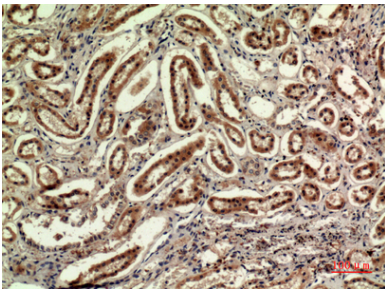
パラフィン包埋ヒト肺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト肺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された